

令和6年度 江東区立東陽中学校 自己評価表

校長名 関根 淳之

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		学力の向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	生徒が主体的に学習し、深い学びを進められる授業への改革・改善を継続し、このスタイルを作り上げる。生徒にとってわかりやすい授業、生徒がかがやく授業、生徒が学ぶ楽しさや喜びを味わえる授業を実践する。	84.6% 92.4%	生徒による授業評価アンケートで各教科の ・授業内容がよくわかった ・わかる楽しさを感じられた の質問に対する肯定的回答 $\geq 85\%$ 学校評価アンケートにおける ・わかりやすい授業 ・基礎、基本が身についている $A+B \geq 85\%$	89.6% 90.3% 90.7%	A
2	学校の教育活動全体でタブレット端末やICT機器の活用を一層推進する。また、活用においては生徒にルールやモラルを大切にさせる。	92.4% 76.9%	学校評価アンケートにおける授業等で Chromebook を使うことによる学習効果や学習意欲の高まりに対する肯定的回答 $\geq 80\%$ こうとう学びスタンダードアンケートにおける ・学習時 Chromebook があると便利 ・Chromebook を使用する際にはルールを守っているか に対する肯定的回答 $\geq 85\%$	79.9% 90.5% 94.7%	B
3	こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～の定着と、常にこうとう学び方スタンダード8項目を意識した取り組みを実践する。	84.6%	こうとう学びスタンダード定着度調査結果 $\geq$ 区平均 学校評価アンケートにおける学び方スタンダードの8項目を守っているに対する肯定的回答 $\geq 75\%$	70% 73.3%	B

<結果についての分析と改善策>

「学力の向上」に関しては、昨年に引き続き、生徒が主体的に学習し、わかる・楽しい授業への改善・改革を目標とし、全教員が一致団結して取り組むよう指導した。こども側の達成度については、若干ではあるものの、昨年の達成度を上回った指標が多く（中には下がっている指標もあるが）、概ね良好と考えている。昨年の課題としてあげた教員の自己評価（昨年は低いものが多かった）については、本年度かなり改善し、昨年以上にしっかり取り組んだと自己評価している教員が増え、副校長との授業観察においても、昨年以上の取組であったことを確認できた。

ICTの活用について、扱いに慣れている教員、得意である教員、そうではない教員と様々で、教員個人による差があることは事実である。学年や全校で同じ取組をする時に全員で使う場面を設けたり、ICT支援員を活用したりと、効果的な場面ではできる限り活用するよう促しており、教員間にも活用していくという意識が高まっている。一方、使用時のマナー、モラル、ルールの遵守については、生徒は守っていると考えているが、教員の意見からは、学習以外のページを見ている、タブレットを使わないとの指示を出してもなかなか終了しない等、指導が通っていかないと思えることもあり、それが自己評価の中に表れていると考える。

こうとう学びスタンダードについて、教室内掲示、朝礼での講話に盛り込む等、教員の指導徹底、生徒の意識を高めるよう努力してきたが、もう一步の結果となった。

重点領域2		豊かな心の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	いじめや問題行動のない、全生徒が安全で安心して学校生活を送れ、満足して下校していく東陽中とする。問題行動への適切な指導、いじめ防止や早期解決、不登校生徒への支援や不登校を出さない態勢づくりに全教職員で取り組む。	100%  100%	不登校生徒の出現率 $\leq 5\%$ こうとう学びスタンダードアンケートにおけるいじめはどんな理由があってもいけないに対する肯定的回答 $\geq 85\%$ 学校評価アンケートにおけるいじめなどの困ったときの対応 $A+B \geq 80\%$	5.7%  93.3%  64.0%	B
2	学級や学年、生徒会活動において生徒に役割を与え、その役割の責任を果たすことにより、自己有用感を高める指導を展開する教員を100%とする。	100%	学級や学年、生徒会の委員会活動、部活動等で自身の役割や責任を果たし、貢献していると思う生徒の割合を68%以上とする	65.0%	B
3	全教員による不安や困り感を抱えている生徒へ真の寄り添った指導を展開し、適切な支援、指導を行う。また、SC、SSWを有効に活用する。	100%	学校評価アンケートにおける ・教員の生徒理解 ・困ったときの迅速な対応 ・相談しやすい体制 $A+B \geq 80\%$	82.7% 64.0% 60.2%	B
<p>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</p> <p>「豊かな心の育成」では、教員の努力指標に対する自己評価が全て100%であり、指標の達成に向けた取組がしっかりできたと考える。日頃の職務遂行を見ている、常に指標を意識した指導場面にたくさん触れた。</p> <p>昨年に引き続き、「いじめはどんな理由があってもいけない」の質問に対する肯定的回答が90%をこえた。道徳で扱う学校の重点テーマに「いじめ根絶」を掲げ、全学級で年3回以上の道徳授業、教育活動の様々な場面でいじめ根絶指導が実を結び、生徒にいじめは絶対にいけないという意識が徹底されてきた証と考える。</p> <p>常に生徒に寄り添い、生徒を第一に考え、生徒に笑顔があふれる東陽中を目指し取り組んできたが、今年も相談体制や、困ったときの教員の対応に対する生徒の評価が目標を下回った。今年度の取組を振り返り、改善できる点を探り、次年度は今年度以上の迅速な対応、相談しやすい体制づくりにまい進する。</p>					

重点領域3		体力の向上と健康な生活			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	保健体育科の授業で運動することの良さや楽しさを実感させ、生涯にわたり運動を続ける気持ちをもたせる。また、生徒一人一人に体力が向上したことを実感させる。	80%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける ・保健体育の授業で前よりできるようになったことがある ・ウォームアップタイムに積極的に取り組む に対する肯定的回答 各 $\geq 80\%$	87.1%  90.6%	A

<様式1>

2	瀬立モニカ選手の講演「心の教育授業～折れないココロのつくりかた～」や、がん教育、薬物乱用防止教室、生活習慣病の予防、メンタルヘルス等健康教育に積極的に取り組む教職員を100%とする。	100%	各講演、講習、教室実施後の生徒アンケートにより考察する。	93.0%	A
---	---	------	------------------------------	-------	---

<結果についての分析と改善策>

体力の向上や健康教育について、保健体育科の授業のみならず、行事や部活動、講演会等、学校の教育活動全体を通して取り組むことを目指し努力した。開校40周年記念運動会では生徒が主体的に運営や競技に取り組み、例年以上の心意気で運動会を成功に導くことができた。瀬立選手を迎えての講演会でも、生徒会を中心に会のもち方やお礼について企画、交流会は2学年の生徒が内容を検討し、実り多き講演会となった。

体力テストの結果では、顕著な体力の向上が数値となって出ていないが、生徒のアンケート結果からは成果が出ていることが実感できる。次年度は今年度の成果であった生徒の気持ちの変化を大切に、引き続き体力の向上、健康教育に取り組む。

重点領域4		周年行事の成功と信頼される学校・地域との連携			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	年度当初に校内周年組織を示し、3名の主幹教諭を各委員長とし、周年行事に向けて組織的に取り組ませ、生徒がかがやき、思い出に残る有意義な周年行事とする。	92.3%	周年行事終了後の生徒アンケートや学校評価アンケートにより考察する。	85.2%	B
2	全教職員で情報発信に努めるとともに、その情報が伝わるよう発信の仕方を工夫する。 学校からの様々な情報発信について、生徒には学活で、PTAへは実行委員会で、地域へは教職員が出席する会合等で宣伝する。	92.3%	学校評価アンケートにおける ・積極的な情報発信 A + B ≥ 85% ・学校が発信するプリントなどを読んでいる A + B ≥ 65%	91.9% 72.5%	A

<結果についての分析と改善策>

周年行事への取組は、計画通りに校内組織、PTAや地域を含めた実行委員会を作り、それぞれが定期的に会合をもち、準備を進め、式典、祝賀会の成功につなげた。教員の自己評価は高く、一人一人が意識を高くもち、成功に向けて取り組んでいたことが確認できた。生徒も式典はもちろん、運動会や講演会などの周年記念行事へ生徒主体で取り組んでいたが、アンケートの「周年記念行事への取組で一生懸命に取り組んだ」への肯定的回答が90%に届かなかったことが残念である。

情報発信については、副校長が中心となり、多くの教員に関わってもらいながら、HPの定期的な更新、学校・学年だよりの発行を行った。また、周年関係も含め、地域の会合には積極的に参加し、情報発信に努めた。校長が地域での講演も行った。このようなことが評価され、良い結果へとつながったと考える。情報に触れる割合も昨年度より15%向上しており、次年度も引き続き読んでもらえるHP、学校・学年だよりを発行していく。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B：50%以上90%未満

C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）